

損保総研 ストレスシナリオテーマで講座開催

# 「ジャパンリスク」の影響解説

国債暴落

領土問題

巨大自然災害

## ビジネス多様化の必要性強調

損保総研は2月6日、損保会館会議室で「保険・金融業界におけるストレステストとストレスシナリオその現状と課題」をテーマにした特別講座を開催した。ソシエテジェネラル証券東京支店でグローバルマーケティング統括本部副社長を務める酒井重人氏と有限責任監査法人トーマツ金融インタストリーグループマネジャーの岡崎貴治氏が、保険・金融業界でのERM(統合的リスク管理)やストレステストの実施状況、ストレスシナリオ作成のポイントなどについて紹介するとともに、国債暴落や領土問題、巨大自然災害といった日本社会が抱える「ジャパンリスク」とそのインパクトについて解説した。当日はリスク管理部門や経営企画部門をはじめとする保険会社社員など多数が参加した。



酒井氏



岡崎氏

岡崎氏は冒頭、銀行業界におけるERM(統合的リスク管理)について説明。ERMを「金融機関が直面するリスクを、自己資本比率の計算に算入しないものも含め、各カテゴリーごとに評価した上で総体的にとらえ、金融機関の経営体力(自己資本)と比較・対照することによって自己管理型のリスク管理を行うこと」とし、各種リスクをVaRなどの統一的な尺度で測った上で統合する「統合リスク管理」と区別した。

レステストの実施状況、金融規制上で示されるストレステストの内容、金融庁のストレステストに関する検査基本方針や監督方針などを説明した後、保険業界におけるERMに話題を移し、中核的な機能となるORSA(Own Risk and Solvency Assessment)を中心に解説。岡氏はORSAについて「中長期的な経営計画に資本計画・投資計画などを反映した、トップダウンかつフォワードルッキングなソルベンシー評価」と定義付けし、各基準における位置付けを紹介した。

金融機関のバーゼル規制と保険業界のソルベンシー規制の比較では、「基本的にはそれほど変わらないが、バーゼル規制の第1の柱(自己資本規制)では、すべてのリスクをカバーしていないのに対して、ソルベンシー規制ではすべての重要リスクを包括的に取り込んでいる」と述べた。

また、後半は、ストレステストの実務動向として、拡大と国債リスクについて言及。財務省・日本銀行の公表データや独自資料を紹介しながら、①積極的な金融政策の効果②円安で貿易収支、経常収支バランスは改善するか③国債に対する信任の維持④長期金利上昇の金融機関に対するインパクトといったトピックの下で日本経済の現状を分析し、「財政赤字と経常赤字の双子の赤字が発生し、日本国債の安全資産への信任が低下する恐れがある」と述べた。

領土問題などにかかわる地政学的リスクでは、中国の軍事拡大・海洋進出と尖閣問題を中心に議論した。中国共産党の歴史や近年の中国の経済成長の推移、海洋進出戦略の方向性などを地図や年表を示しながら説明し、「すぐに軍事衝突は起きにくい、ちょっとしたことでコントロールを失う可能性がある」とし、有事が起った場合の経



保険会社社員が多数参加

の作成、インパクト計測の現状と課題などについて解説した。酒井氏は「日本における主要なリスクとストレスシナリオ」というテーマでまず、国家的財政赤字の拡大と国債リスクについて言及。財務省・日本銀行の公表データや独自資料を紹介しながら、①積極的な金融政策の効果②円安で貿易収支、経常収支バランスは改善するか③国債に対する信任の維持④長期金利上昇の金融機関に対するインパクトといったトピックの下で日本経済の現状を分析し、「財政赤字と経常赤字の双子の赤字が発生し、日本国債の安全資産への信任が低下する恐れがある」と述べた。

また、後半は、ストレステストの実務動向として、拡大と国債リスクについて言及。財務省・日本銀行の公表データや独自資料を紹介しながら、①積極的な金融政策の効果②円安で貿易収支、経常収支バランスは改善するか③国債に対する信任の維持④長期金利上昇の金融機関に対するインパクトといったトピックの下で日本経済の現状を分析し、「財政赤字と経常赤字の双子の赤字が発生し、日本国債の安全資産への信任が低下する恐れがある」と述べた。

領土問題などにかかわる地政学的リスクでは、中国の軍事拡大・海洋進出と尖閣問題を中心に議論した。中国共産党の歴史や近年の中国の経済成長の推移、海洋進出戦略の方向性などを地図や年表を示しながら説明し、「すぐに軍事衝突は起きにくい、ちょっとしたことでコントロールを失う可能性がある」とし、有事が起った場合の経